

海外移住 資料館 だより

Japanese Overseas Migration Museum News No.46

2017
Summer

日本人の海外移住は100年以上の歴史があります。

JICA横浜 海外移住資料館では、海外へ移住し、それぞれの国や地域で新しい文明作りに参加してきた日本人移住者の歴史と、その子孫である日系人について広く理解を深めてもらうことを目的に、さまざまな資料を展示しています。

■発行元：JICA横浜 海外移住資料館

神奈川県横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜2階

Tel:045-663-3257 (代) URL:<http://www.jomm.jp/>

■編集発行人：JICA横浜 海外移住資料館 館長 朝熊由美子



カウアイ島キラウエアのサトウキビ・プランテーションで働く日本人移民(1912年頃)
(Hawaiian Historical Society, H.W.Thomas' album)



マウイ島カフルイのニモリ商店(1921年)
(Courtesy of Nimori Family)



フランク・メルリル少将(中央)と二世の通訳ハーバート・ミヤサキ(右)、アキジ・ヨシムラ(左)ビルマにて(1944年5月)
(U.S. Army)

写真展 ハワイ日系人の歩み



ウクレレ奏者
ジェイク・シマブクロ
(Courtesy of Jake Shimabukuro)



日系人初の連邦議員 ダニエル・K・イノウエ
(U.S. Senate photo)



父と子の涙の再会(1946年)
(Honolulu Star Bulletin)

写真展

ハワイ日系人の歩み

6月24日(土)～9月3日(日)

当資料館では、ハワイに渡った初期の日本人移民の暮らしや、日系二世部隊の活躍など、ハワイ日系社会がたどってきた道のりを、退役軍人とその子孫で組織された「二世ベテランレガシー(Nisei Veterans Legacy)*」が制作した、写真約100点によるパネルで紹介する写真展「ハワイ日系人の歩み」を開催します。

写真展を日本で開催することになったいきさつや、日本の人々に伝えたいことなど、二世ベテランレガシーのバーンズ・ヤマシタ「ハワイ日系人の歩み」実行委員長にお話をうかがいました。

※二世ベテランレガシー(Nisei Veterans Legacy):第二次大戦時の米軍日系二世部隊である第442連隊戦闘団、第100歩兵大隊、MIS軍事情報部(Military Intelligence Service)、1399工兵大隊の功績を次世代に継承することを目的として、2012年に設立された非営利団体。



二世ベテランレガシー
「ハワイ日系人の歩み」実行委員会
バーンズ・ヤマシタ委員長

日本で開催することになったきっかけは？

2014年から15年にかけて、二世ベテランレガシー主催で、ハワイ州の5つの島で日系二世部隊の写真展「Go for Broke」(当たって砕ける)の巡回展示を開催しました。その際、大きな反響がありましたが、その中に「この展示を日本で開催し、ハワイ日系社会が、日本の文化や慣習を守り、次の世代に受け継いでいることをぜひ紹介してほしい」という感想があったことです。

日本の人々に伝えたいことは何でしょう？

私の父は、第442連隊に志願した日系二世兵士です。私が若い頃は、父の戦争体験に興味を持っていませんでした。二世部隊だった方がだんだんなくなっていくのを目の当たりにするなかで、戦争のこと、二世部隊のことをこれからの世代に伝えていく責任があると思うように

なったのです。日系二世兵士は、偏見に負けず、国家に忠誠を尽くして戦っただけでなく、戦後、日系人の地位向上のために努力したほか、日本の復興やアメリカとの関係改善のために活動しました。その功績を日本の多くの方に知ってもらいたいと思っています。

ハワイの日系人が大切にしてきたものとは？

ハワイの日系人は、「Okage Sama De(おかげさまで)」という言葉をとっても大切にしています。様々な苦難を乗り越え、今日の日系社会を築いてくれた先祖に対する感謝の心が受け継がれているのです。

150年にわたるハワイ日本人移民の歴史や日系人の歩みの中で、私たちが大切にしてきた「おかげさまで」の心と、「アロハ・スピリッツ」を感じていただければと思います。



ホノルル・フェスティバルでの展示の様子

ハワイ移住のはじまり



サトウキビ・プランテーションで働く一世の女性(日付不詳)
(Hawaii State Archives)

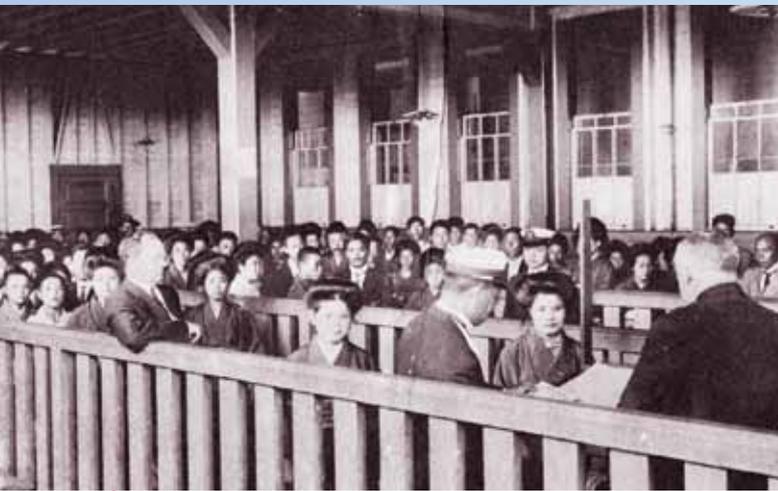
ハワイ王国総領事として横浜に駐在していたヴァン・リードが江戸幕府と交渉して、出稼ぎ移民300人をハワイへ送り出す準備をしていましたが、明治新政府は江戸幕府との交渉内容を無効としました。リードは、明治政府の許可がないまま、1868(明治元)年、英国帆船「サイオト号」に移民153人を乗せて出港しました。この移民はのちに「元年者(がんねんもの)」と呼ばれます。

1885(明治18)年、第一回官約移民*945人が「シティー・オブ・トウキョウ号」で、横浜からハワイへ向け出発しました。日本人移民は、サトウキビ・プランテーションで、契約農民として働きました。



※官約移民とは、ハワイ王国政府と日本政府の間で渡航や労働に関して結ばれた協約に基づいて、ハワイへ渡った移民のこと。官約移民はハワイ王国総領事ロバート・W・アーウィンによって進められた。

ホノルルからハワイ島へ向かう契約移民
(1899年頃)
(Hawaii State Archives)



「写真花嫁」の入国手続き(1915年頃) (Hawaii State Archives)

写真花嫁として渡った女性たち

1910年代になると、多くの日本人がハワイに永住することを決断するようになりました。

移住地には、独身の日本人女性が少なかったため、日本人女性と結婚したいと希望する青年移住者は、結婚相手を見つけることが困難でした。そこで考え出されたのが、写真によるお見合いです。写真と文通だけで、結婚することを決心し、まだ見ぬ「夫」の住む国へ移住した女性たちは、「写真花嫁」と呼ばれました。

第二次大戦中のハワイ

1941年、日本の真珠湾攻撃により、日本とアメリカが戦争に突入すると、アメリカ本土の西海岸地域に住む日系人は、アメリカ生まれで市民権を持つ二世も含め、収容所へ強制的に移動させられます。

1940年当時のハワイ全体の人口およそ423,300人のうち、日系人は約157,900人と37%を占めており、社会的にも経済的にも日系人がいなくてはハワイそのものが成り立たなくなってしまうため、当初、強制収容されたのは、日本語学校の教員や僧侶、新聞記者など、指導的立場にあったとみなされた人たちのみでした。オアフ島中部のホノウリウリ収容所には、最終的には、2000人もの日系人が収容されました。

ハワイの二世は強制収容こそされませんでしたでしたが、アメリカ人である自身の取るべき行動として軍に志願する道を選び、日系二世部隊第442連隊、第100大隊としてヨーロッパ戦線に送られ、多くの犠牲者を出しながらも戦い抜きました。

日本語能力を買われ、MIS(軍事情報部)に配属された二世兵士は、太平洋戦線で、日本軍の作戦を察知したり、降伏を呼びかけるピラを作成したりしました。日本で唯一、住民を巻き込んだ地上戦が行われた沖縄では、防空壕などに隠れていた住民に、日本語で投降を呼びかけ、多くの命を救った二世兵士もいました。

2015年、ホノウリウリ収容所跡地は、国定史跡に指定されました。



第100歩兵大隊の日系二世兵士。イタリアのサレルノ近くにて(1944年) (U.S. Army)



ガスマスクを着用する子ども(1942年12月)
(Courtesy of Japanese Cultural Center of Hawaii/
Chiyo & Calvin Matsumura Collection)



西オアフのホノウリウリ収容所(1945-1946年頃)
(Photograph by R.H. Lodge, Courtesy of Japanese Cultural Center
of Hawaii / Hawaii's Plantation Village Collection)

戦後日本の 新たな出発への支援

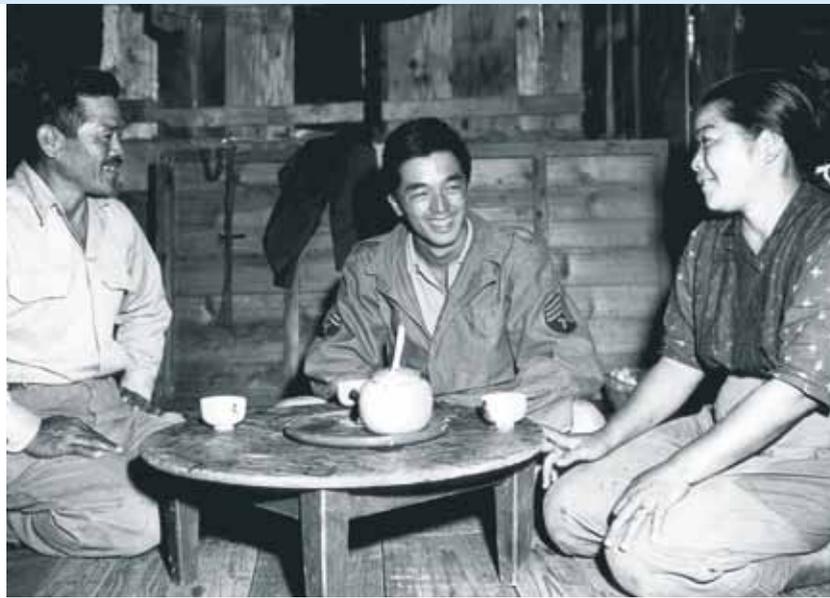
終戦を迎えた日本において、二世兵士は語学力を生かし、GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)と日本政府の橋渡し役として活動したり、英語や野球などを教えて、アメリカに対する憎しみや誤解を解く努力をしたりしました。なかには、日本人女性と結婚し、1952年に米国による占領が公式に終了した後も、日本に残った人もいました。



日系二世のアメリカ人は野球を通じて日本人との交流を深めた。
富山にて(1949年) (Fukuhara Family Collection)



ハワイ州選出の日系連邦議員スパーク・マツナガ(左端)、パツィ・ミンク(左から2番目)、ダニエル・イノウエ(右端)、リンドン・ジョンソン大統領(中央)とジョン・バーンズ州知事(右から2番目)とともに、ホノルルにて(1960年代)(Lyndon B. Johnson Presidential Library)



沖縄の糸満市の親族と再会した米陸軍の通訳ケンヨ・ミヤシロ二等軍曹(1945年)
(Courtesy of Densho and the Seattle Nisei Veterans Committee)

日系人の地位向上のために 努力した日系二世兵士

戦後、除隊してハワイに戻った日系二世兵士は、復員軍人援護法(G.I.Bill)による奨学金で、米国本土やハワイの大学、大学院で学び、医者や弁護士、政治家、教師、ビジネスマンなど、さまざまな職業で社会進出を目指しました。

当時、日系人をはじめ、移民やその子孫は、社会的に不平等な扱いを受けることがあり、その一つは銀行の融資がおりないことでした。

元二世兵士だったエルトン・サカモトとサカエ・タカハシは、「自分たちで、移民とその子孫らマイノリティのための銀行を作ろう」と銀行設立のため奔走。趣旨に賛同した元二世兵士たちの出資も集まり、1954年「セントラル・パシフィック・バンク」を開業しました。

また、戦時中の強制収容に対する謝罪と補償を求めた運動が実を結んだ1988年の「市民の自由法(日系アメリカ人補償法)」の成立^{*}には、元二世兵士でハワイ出身の連邦議員、ダニエル・イノウエとスパーク・マツナガラ日系アメリカ人議員の尽力が大きな要因となっています。

^{*}1988年8月10日、レーガン大統領は、戦争中に強制収容された日本人移民および日系アメリカ人に対し公式に謝罪し、ひとり2万ドルの補償金を支払う内容の「市民の自由法(日系アメリカ人補償法)」に署名した。

ハワイ日系人関連年表

1868	明治元年	アメリカ人ヴァン・リードが居留地神奈川(横浜)で集めた日本人150人余(元年者)を維新政府の許可なしにサンドウィッチ島(ハワイ)へ出発させる
1885	明治18年	1月28日 第一回「ハワイ官約移民」945人が横浜を出発
1886	明治19年	1月 日本とハワイ王国政府が「移民渡航協約」を締結
1893	明治26年	1月 ハワイ王国で革命が勃発し2月にハワイ王朝が崩壊
1894	明治27年	6月 「官約移民」のハワイ渡航が終わり、「私約」移民の渡航がはじまる
1896	明治29年	1月 日本で「移民保護法」 [*] が施行される。
1898	明治31年	8月 アメリカ合衆国がハワイを併合
1900	明治33年	ハワイ行き旅券を所持する日本人労働者のアメリカ西海岸への転航がはじまり、その数が年々増加する
1941	昭和16年	12月 日本海軍が真珠湾を攻撃し日米戦争がはじまる

1942	昭和17年	2月19日 ルーズベルト大統領が行政命令9066号に署名して強制立ち退き地域を明示しその地域から日本人を移動させる権限を陸軍に与える
		3月30日 公共の場所に軍事地域からの「民間人立ち退き命令」が公示され11万人に及ぶ日本人と家族の強制立ち退きはじまる
1943	昭和18年	8月 ハワイで編成された二世部隊「第100大隊」がヨーロッパの戦場に向け出発し、北アフリカのオランに上陸後第5軍団の第34師団に編入される
		9月 米英軍がイタリアの本土に上陸 第100大隊の二世兵士はオランを出発してイタリアへ向かい翌年6月までの9か月間イタリアの戦場で戦闘に参加
1945	昭和20年	4月 米軍が沖縄に上陸
		8月15日 日本政府はポツダム宣言を受諾
1952	昭和27年	12月 合衆国連邦議会が「移民国籍法(ウォーター・マッカラン法)」を制定し、「帰化不能外国人」の一世に帰化権が認められる
1959	昭和34年	ダニエル・イノウエ氏がハワイ州選出の連邦議員に当選(日系人初)
1988	昭和63年	8月 合衆国連邦議会が「戦時日系人抑留補償法」を制定し大統領が署名

^{*}移民保護法:移民を守る目的で、移民の取り扱いを制度化した。

海外各地で移住者・日系人のために発行されている邦字新聞より、気になるトピックをピックアップしてご紹介します。

2017年6月1日 ハワイ報知

ホノルル空港が「ダニエル・K・イノウエ空港」に改名

ハワイ報知

アメリカ・ハワイ州オアフ島のホノルル国際空港が、日系初の連邦議員で2012年に死去したダニエル・ケン・イノウエ氏の名にちなみ、「ダニエル・K・イノウエ国際空港」に改名されました。イノウエ氏は、第二次大戦ではアメリカ軍に志願し、日系兵士で編成された442連隊に所属。ヨーロッパ戦線での戦いで右腕を失いました。戦後は、厳しい差別にさらされた日系人の立場を変えるために政治の道を目指し、日系初のアメリカ連邦議員として日系人の地位向上に貢献しました。

その改名式典の様子はハワイ報知(本社:アメリカ・ハワイ)が伝えています。



ハワイ報知の紙面より

【ホノルル・スター・アドバイザー】ハワイ州内最大規模のホノルル国際空港が、半世紀以上にわたって連邦議員を務め、ハワイの発展に大きく貢献した故ダニエル・K・イノウエ氏の名にちなんで改名され、30日に式典が開かれた。イノウエ氏は上院議員だった2012年12月22日、88歳で死去した。ハワイ州運輸局オフィスビルには、これまでの「アロハ」という標識に代わり、照明付きの「ダニエル・K・イノウエ国際空港」という標識が掲げられた。(中略)

51年以上にわたり、連邦議員として活躍したイノウエ氏は、ハワイの多くのプロジェクトで連邦資金を確保。その一部は毎年、ホノルル国際空港の開発や維持に充てられた。

アイリーン未亡人は改名式典で、イノウエ氏にとって空港は特別な意味があり、改善工事の進行状況に満足しているはずだと話した。

娘のマギーさんを連れて式典に出席したイノウエ氏の息子、ケン・イノウエ氏によると、空港の改名は、家族にとつての哀悼とアロハ精神の重要性を同時に象徴しているという。ケン・イノウエ氏は、「父の最後の言葉はアロハだった。父にとつてはその精神が、特別な意義を持っていた」と述べた。

イノウエ氏を政界での恩師として仰ぐハナブサ議員は、「空港の改名により、ハワイのために多大な貢献をした偉大な議員の名が、次世代の人々にも伝わることになる」と語った。(後略)

TOPICS

海外移住資料館や海外移住にまつわるさまざまな情報をお届けするコーナーです。



マチュピチュ村を創った日本人 野内与吉資料館が福島県大玉村にオープン!

ペルーにあるインカ帝国の遺跡であるマチュピチュは、アンデス山麓に属する山の尾根に築かれた「空中都市」として世界的に有名ですが、マチュピチュ遺跡のあるマチュピチュ村の初代村長が、第二次大戦前に移住した日本人だったということは、日本でもほとんど知られていません。

この「マチュピチュ村を創った日本人」野内与吉(1895-1969)の当時の写真や遺品、古代アンデス文明の出土品などを展示する「野内与吉資料館」が、与吉の故郷である福島県安達郡大玉村に5月3日オープンしました。

与吉は、ちょうど100年前の1917年に横浜港からペルーに渡り、マチュピチュまでの鉄道建設に携わったのをきっかけに現地に定住。マチュピチュ初の大型木造建築となる「ホテル・ノウチ」を起点に地域発展に尽くしました。郵便局や行政機関にホテルを開放し、水力発電所を建設するなど、地域住民の信頼を得、1939年に地区行政最高責任者となり、村政が敷かれてすぐの1948年から1950年まで、初代の村長を務めました。

資料館の設立に奔走した野内セサル良郎さんは、与吉の孫にあたり、1992年に16歳で来日。仕事をしながら定時制高校から大学、大学院と進み、現在もペルー移民の研究を進めています。「100年前に海を渡り異国の地で頑張った日本人がいたことを多くの日本人に知ってもらいたい」と話していました。

2015年10月、大玉村は、世界で初めてマチュピチュ村と姉妹都市提携を結んでいます。

野内与吉資料館

開館時間: 9:30-16:30(月曜休館)

入館料: 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生200円

〒969-1301 福島県安達郡大玉村大山字大皿久保110-5 大玉温泉 金泉閣内

TEL: 0243-24-1939

<https://oscar-nouchi-yokichi.wixsite.com/memorial-museum>



5月2日に在日ペルー大使館文化参事官や、在東京ペルー共和国総領事も出席して行われた資料館オープニングのテープカット。前列中央が、野内セサル良郎資料館長



野内与吉が実際に使った工具などが並ぶ資料館

夏休みイベント スケジュール

詳細は海外移住資料館HPをご覧ください。

ミュージアム・ミッション

7月22日(土)～8月31日(木)

みなとみらい地区にある6つの博物館からの
ミッションにチャレンジしよう!
全館のミッションをクリアすると全館賞がもらえるよ。

スペシャルイベント

JICA横浜 館内ツアー!

海外移住資料館のバックヤードや海外の研修員が
勉強するセミナールームなどをご案内します。

8月24日(木) 14:00～15:00

定員10名(予約不要、子ども優先の先着制)

神奈川近代文学館(近文)とのコラボ企画!

近文のスペシャルイベントは「移民」を
キーワードにギャラリートークを開催します。

近文ギャラリートーク:8月24日11:00～11:30



子どもアドベンチャー2017

かるたで遊んでタイムスリップ!

8月17日(木) 10:00～16:00 予約不要

移民カルタで移住の歴史や移住者の経験を楽しく学びましょう!
参加者には資料館オリジナルグッズをプレゼントします。

「ミニ資料館を作ろう!」

(小学4年～中学3年対象)

8月18日(金) 13:00～16:30

定員5名(申込多数の場合は抽選)

申込締切 7月12日(水)

収蔵庫に眠るお宝をみんなの手で展示してみよう!
参加者には「資料館ジュニア・スタッフ認定証」
と「記念写真」をプレゼント!

★申込方法など詳細は海外移住資料館HPをご覧ください。



海外移住資料館周辺マップ



- 開館時間 10:00～18:00(入館は17:30まで)
- 休館日 月曜日(月曜日が祝祭日の場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 無料

アクセス

■みなとみらい線

「馬車道」駅(4番出口)から徒歩約8分

「みなとみらい」駅(クイーンズスクエア方面改札)から徒歩約15分

■JR線・市営地下鉄

「桜木町」駅から(汽車道→ワールドポーターズ→サークルウォーク)
徒歩約15分

企画展示関連公開講座

特別上映会&トークイベント

講師 すぎきじゅんいち監督
バーンズ・ヤマシタ「ハワイ日系人の歩み」実行委員長

7月30日(日) JICA横浜4階 かもめ

- ・13:00～14:40 映画上映『二つの祖国で 日系陸軍情報部』
- ・14:50～16:00 トークイベント

二つの祖国で 日系陸軍情報部

原題:MIS Human Secret Weapon 企画・脚本・監督:すぎきじゅんいち
2012年/日本・アメリカ/100分 配給:フィルムヴォイス

入場無料
予約不要

Coming Soon

メキシコ日本人移住120年・メキシコあかね記念館開館記念

企画展示「メキシコに渡った日本人」(仮題)

9月30日(土)～12月24日(日) (予定)

1897年5月10日、メキシコ・チアパス州に34人の日本人が上陸しました。この一団が入植した殖民地は、当時の外務大臣榎本武揚によって推進されたことから、「榎本殖民地」と呼ばれました。今年はそれから数えて120年にあたりますが、メキシコの日本人移民の歴史については、あまり知られていません。様々な側面を持つメキシコ日系社会の歴史を振り返ります。



独立行政法人国際協力機構 横浜国際センター
海外移住資料館

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2丁目3番1号 TEL.045-663-3257 FAX.045-211-1781

<http://www.jomm.jp>

Eメール info@jomm.jp